

目に見えないものこそ本質

自由の森学園高校には1000を超える自由選択授業があります。私も理科の教員とペアを組み、フィールドワークを採り入れた「林業」の授業を担当しています。学校周辺の人工林の間伐のほか、シイタケやナメコを栽培します。

シイタケはコナラを原木にし、そこに穴をあけ、菌が培養された駒を打ち込んでいきます。駒が詰まった容器の中は、真っ白なカビのようなもので覆われています。

以前、菌を打ち込んだ原木からいつまでたってもシイタケが顔を出さないので心配になり、指導を受けた県の職員の方に来ていただいたことがあります。彼は原木をのこぎりで輪切りに

自由の森学園理事長

鬼沢真之

はぐくむ

シイタケ



し、その切り口を見て「大丈夫、ちゃんと育っていますよ」。よく見ると、切り口にうっすらと白いものが見えました。

「この匂いを嗅いでみてください」。そう言われて鼻を近づけると、驚くことにシイタケの香りがしました。つまり、シイタケ(菌)は順調に丸太の内部で育っていたのです。白く見えたのは菌糸で、その後、ほど木からは次々にシイタケが出てきました。

高校の入学式で、シイタケがついたほど木を見せながら、この話をすることがあります。

「これを見せているのは、シイタケは表面に現れたほんの一部分にしか過ぎないということを知ってほしいからです。実は

このほど木の中はシイタケをつくる菌がびっしり張りめぐらされているのです。シイタケの生物としての本体はむしろこの木の中にあるシイタケ菌と言えるかも知れません。目に見えないものこそ本体であるということ、今後の学校生活を送っていく皆さんのありようにも大事なヒントを与えてくれると思います。目の前に現れたこと、表現されたことの背景にはもっと本質的なことが隠れている場合が多々あります」

このメッセージは、新入生だけではなく、その保護者のことにも意識していました。

しばしば保護者から、子どもの成長の姿が見えないという話を聞くことがあります。うちの子は何も考えていないのではないかと不安を漏らす方もいます。そんな時、私は、シイタケのほど木のことを思い浮かべるのです。目には見えなくても、彼らのなかで着実に育っているものが必ずあると。

おにぎわ・まきゆき 1960年生まれ。

86年から自由の森学園中学・高校に勤務。2004年から12年度まで学園高校校長。